

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400197		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ市原		
所在地	千葉県市原市東国分寺台1-11-7		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	令和5年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和5年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の為、地域交流には力を入れている。
 コロナ禍以前のように、地域の学校とは交流が難しくなりましたが、地域のボランティア団体とは交流を続けている。具体的には、skypeを使用しオンラインでの交流を行っている。オンラインで、地域の公園や果樹園に行っていたら、季節の花や果物狩りを行っている。
 ほかに、ミモザ市原職員と地域の公園への散歩や寺へ参拝など行っている。マスク着用や手洗いうがいの励行は基本とし、季節感を楽しむことやその場にいる方と会話することを楽しんでいただけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)新管理者の下、職員が心から笑い「入居者を笑顔にする」「温かい介護」をモットーとし、入居者一人ひとりの自立支援にチームとして取り組んでいる。2)コロナ禍で外出や人との交流ができない状況でも地域資源を活用し、地域ボランティア団体によるオンライン映像でミカン狩りをしたりお花見をするなど、入居者の喜びと社会との繋がりを維持できるよう取り組んでいる。3)コロナ禍で外出制限など制約のある中で、入居者一人ひとりの過ごし方を工夫し、入居者と職員と一緒に体操やゲームを楽しみ、また、壁飾りや創作物を作りながら、笑顔でお喋りしている姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	思いやりのある介護、いつも笑顔、環境整備の徹底を共有している。	「思いやりのある介護・いつも笑顔で・環境整備を徹底する」との理念を掲げている。入居者を笑顔にするために先ず職員が心から笑う「温かい介護をすること」をモットーとして、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体との交流や公園やお寺などでその場にいる方と会話し交流している。	地域ボランティア団体の協力により、コロナ禍でもオンラインを活用し、レクやお墓参り、ミカン狩り風景などを配信して頂き、一緒に楽しんでいる。コロナ禍終息後にはいつでも地域との交流ができる準備ができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、運営推進会議を通じて町内の方へ認知症についてご理解いただけるよう説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会より祭りへの参加案内を頂くことや、ミモザ市原の運営状況を報告し意見を取り入れるよう心掛けている。	入居者の状況、行事实施状況と予定などの運営状況資料と会議報告書を町内会長、地域民生委員、地域包括支援センターと家族に送付し書面による運営推進会議を2か月に1度開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市原市役所が近くにあるため、行政の介護保険課、生活福祉課と連携を取りやすい。運営推進会議にも参加していただき意見を頂いている。	市役所が近く、各種手続きも直接出向いて行うことが多く、介護保険課や生活支援課との連携も良くとれている。また、地域包括支援センターには運営推進会議資料の送付や入居者状況の共有などを行っている。地域ボランティア団体など社会福祉協議会とも良く連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、フロア出入口はオートロックとなっており、窓に関してもファスナーロックを用いて開閉制限を行っている。 原則身体拘束を行わないことを運営規定や重要事項説明書に明記している。	「身体拘束および虐待防止に関する研修」を年5回、30分研修に組み入れて実施している。研修報告書提出と管理者がコメントを記入し、言葉による拘束、薬剤による拘束も含め理解向上を図っている。特に自分が言われたらどう思う？と自分に置き換えて考えるなど、具体的事例を上げて拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年2回、身体拘束廃止のための委員会を2月に1回行っている。 2/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護について研修を行い、よりよい支援の必要性を見定めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に読み合わせることを伝え、利用者家族には時間を頂いている。その上ですべて読み上げることで、利用者家族への説明漏れを防ぎ、理解納得した家で署名頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症の影響もあり、ご家族のつながりは玄関先での面会15分程度、また、電話にて連絡ご入居者の様子を伝えると同時に様々な相談をしている。	行事やボランティアなどのレクリエーション時の写真を掲載した「ミモザ通信」と入居者一人ひとりのスナップ写真と共に日常生活の様子や体調などを施設長などが記入した「家族通信」に年間行事予定と当月のレク・イベント予定を添えて毎月家族に送付し、入居者の様子を知っていただき、家族に意見や要望を言って頂きやすいよう工夫している。コロナ禍終息後は以前のように家族参加の行事の復活が期待される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議は1時間程のものをひと月に一回、各階のものを一回ずつ行っている。	新しい管理者も毎日全ての職員と言葉を交わし、職員ひとり一人の気持ちを把握し信頼し合える職場作りに努めている。アロー制度を活用し職務分担をするとともにエアコン、換気扇、壁紙など環境整備に力を入れて取り組んでいる。毎月の全体会議で出される職員からの意見を取り入れ、シフトやレク・行事担当に活かすなど、働き甲斐のある職場作りに力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社事業規定により、定期的に公平な人事評価を行っている。またメンタルヘルスの相談窓口を設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月に社内研修の案内を出して参加を促している。社員登用制度や管理者候補者としての育成研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社研修では異なる地域やサービスの職員と横のつながりを持つことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い、ご本人の言葉を傾聴し、不安や要望をしっかりとサポートする姿勢を伝えることで信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談を行い、施設の実績等を踏まえながら、不安や要望を一つ一つ解決していくことで信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にご利用者状況を見させていただいた上で、ご家族のニーズ、ご本人の意思を尊重したサービス提供を行う。必要に応じて他サービスの案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や掃除などの家事手伝いを日常的にお願いしている。また、食事レクを実施しており、共に台所に立ち食事を作ることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回ミモザ通信という形でご家族にお便りを出している。ミモザ市原グループホーム全体でのレクなどの様子に加え、ひとりひとりに焦点をあてレク以外の時間帯の様子や、往診時の変更点等もお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関して、コロナウイルス感染症の影響もあり制限している。会えないのではなく玄関のように風通しの良い場所にて行っている。 ご本人やご家族の希望により電話の取次ぎを行っている。	新潟や熊本など遠方の兄弟姉妹の方との電話の取次ぎや元の住まいのご近所の方との電話などの取次ぎを行っている。本人のアルバムを持参して頂いている方とは、若い頃や旅行の写真を見て、隣に写っている人や風景を懐かしんでいただくなど、馴染みの関係を思い出していただけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度に差があるため、ご利用者達の間で職員が介入することで和やかに交流できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族の相談に対し、丁寧な支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にミモザでどのように過ごしたいか又はミモザ以外の場も含め希望意向聞いている。	入居前に利用者、家族の意向、希望を丁寧に聞くことに力を入れて取り組んでいる。「皆さんと一緒に楽しく暮らしたい」などの利用者の希望や「転倒に注意をお願いしたい」「できるだけ外に出して欲しい」などの家族の意向をケアプランに反映させている。入居後はフロアや居室でリラックスした機会を見つけて、入居者自身の思いや意向の把握に努めている。把握しにくい入居者には、家族の面会時や電話連絡等で、入居者とのコミュニケーションの取り方や好みなどを聞き取っている。	毎日の入居者の言動や様子は、iPad内の経過記録に記載されているが、内容の充実が望まれる。ケアプランの見直しの情報として活用するためにも、入居者のいつもと違う表情や言動の変化を、より具体的な表現で記録する取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談を行い、生活歴等についてできる限り情報収集を行っている。必要に応じてなじみのあるコップや家具、飾りなどを持ち込んでいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースで過ごしていただき、その中で現状や変化を把握するよう努めている。併せて前任のケアマネや病院のワーカーなどから情報収集している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時ご本人ご家族職員や往診医などから意見聴取し、現状の課題それに対する目標を作成している。	入居者、家族の希望や意向を尊重し、「入居者の笑顔」につながるケアプランを作成している。入居者の言葉や不穏な言動などは、「経過記録」に記載し、「申し送りノート」と併せて職員間の情報共有を図っている。各階のミーティングでは、サービス内容の実施状況の確認や課題について意見交換を行い、支援の見直しにつなげている。家族には、本人のスナップ写真や健康状態、行事を楽しむ様子などのコメントが掲載された「家族通信」を送付して入居者の生活ぶりを報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPadにて記録を取っているため文字のみならず写真も記録として保存している。出勤時には必ず確認している。職員の気づきに関しては口頭や申し送りノートにて報告・連絡・相談し職員会議の際に議題として挙げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営規定に基づくなかで、新規利用者の受入柔軟な支援に努めている。病院受診に関して加須k対応が難しい場合には職員付き添いにて同行している。 5/10		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア団体の方々とオンラインにてイベントの実施している。適宜イベント内容の相談をしている。その成果もあり、地域広報誌にも掲載されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携についてご本人、ご家族に理解をいただいた上で月に二回内科の往診がある。内科医が必要と判断した場合には別途皮膚科も入っている。ご家族の希望によっては訪問歯科診療を行っている。	月2回の内科医による往診と訪問看護をほとんどの入居者が利用し、入居前からの医療機関への受診時には職員が同行している。往診時には、職員から収集した尿失禁が多くなった入居者や不眠の入居者の現状を往診医に伝えて、指示を受けている。その際、医師には極力、薬の服用を少なくして、介護支援で対応していくことを伝えて、理解を図っている。医師からの食事量などの指示事項や薬の変更などは、「申し送りノート」や介護記録に記録し職員間の情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護師は不在。毎週木曜に訪問看護ステーションが入り、健康チェックを行いアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先やご家族様への電話連絡にて、情報交換を行っている。入院が決まった段階で、往診医へ連絡し情報提供がスムーズにいくようにしている。入院時にはワーカーなどと連携を取り、状態を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における対応指針を入居時の書類と同時にお渡しし理解いただいたうえで契約を行っている。	入居時に、重度化対応の考え方、協力医療機関、訪問看護との連携体制や看取りまで対応していることを家族に説明している。血圧や呼吸の急激な変化が見られた際の救急搬送や医療機関への移送対応を迅速に行っている。また、食事がとれない状態になった際には、施設での看取りや入院対応について改めて説明している。看取り対応時には、本人の希望を取り入れ、食べたいものを提供し、「その人らしい」生活と尊厳を守りながら、入居者に寄り添ったケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示や施設内研修により、急変や事故発生時の対応に備えている。新規入職者がいるため周知徹底を進めている状態である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回行い、夜間想定や地震、火事対応など様々想定し訓練している。緊急連絡網は入職退職の度に変更し常に最新のものを使用している。	避難誘導の困難な夜間火災を想定した消火・通報・避難訓練を併設の小規模多機能施設と合同で実施している。「避難訓練実施要綱」にそって、3名の夜勤職員のだけれが、何を行うかを明示し、入居者、職員は訓練に参加している。火元に近い入居者優先の避難誘導や車椅子利用者の一時避難場所の確認など、訓練後に気づいたことや反省点を「実施結果報告書」に整理して職員へ周知している。また、施設に近い職員を優先した緊急連絡網を整備して災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	概ね全職員が優しい声掛けや丁寧な声掛けの実施ができています。施設内研修で尊厳やプライバシーの尊重についても定期的に行っている。	「自分に置き換えて支援する」ことや「自分の家族を入居させたい施設」を目指して、職員は入居者と関わっている。十分な見守りを行い、できるだけ自分の力で排泄やベッドからの立ち上がりを行うなど、やりすぎない介助を心がけている。入浴や食事、睡眠に際しては、入居者の気分や思いを尊重して、無理強いをしない対応を行っている。また、楽しみにつながるレクリエーションに力を入れて取り組み、フロアでは懐かしい歌を入居者同士で楽しみ、入居者の笑顔につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によってはうまく話せない方もいる。その方の声にならない声が聞き取れるように傾聴のスキルを磨いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆がいつも活動的というわけではないため、個人の時間を尊重するように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣服の決定ができる方に関しては、できる限りその日着る洋服選びを行ってもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご当地のおやつや季節の食事を取り入れ楽しんでいただいている。準備が難しくても片づけはできる方には、下膳をお願いしたり洗い物を一緒に行っている。	介護度の高い入居者も、これまでの家事の経験を活かし、下膳、皿洗い、テーブル拭きの手伝いを進んで行っている。毎食の調理には関われないために、季節毎の桜餅やどら焼きづくりなどのおやつレクを頻回に実施して、職員と一緒に手伝って楽しんでいる。特に流しそうめんは大好評で、普段は食事が少ない入居者も食欲を増して楽しんでいる。正月の豪華なおせち料理や誕生会、敬老会では、入居者の希望を取り入れた食事を提供し、季節感と家庭の雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて医師の指示を頂き、食事量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアを行える方に関してはできる限り行っていただく。そのうえで歯磨きの準備や歯磨き粉を絞るなど必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りおむつは使用せず、トイレで排泄できるよう援助している。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	座位が取れる入居者は、出来る限り、トイレでの排泄に拘って支援している。各ユニットには車いす対応を含め3か所のトイレが整備され、可動式手すりの設置により、安心して排泄が行われている。また、シャワー付きのトイレは浴室とつながり、排泄で失敗した際にもプライバシーや羞恥心に配慮して対応している。入居者の表情や動きなどの仕草を察知し、定時誘導と排泄チェック表を活用して、さりげない声かけによる誘導により、排泄の失敗を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクなどで体を動かす機会を設けている。便秘状況は医師と相談し解決している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて午前入浴午後入浴と対応している。ある程度スケジュールは職員で組んでいるが、希望によって前後している。また菖蒲湯やゆず湯など季節に応じた入浴も楽しんでいただいている。	入浴表を活用して、原則、毎週2回、午前中に入浴を行っている。その日の気分に合わせて、午後の時間帯や入浴日の変更を行い、入浴拒否の入居者には声掛けの職員を変えるなど、柔軟に対応している。浴室にはつかまりやすい位置に手すりを設置し、浴槽を跨げない介護度の高い入居者には職員の介助により安全な入浴支援を行い、必要に応じて、シャワー浴や清拭により清潔保持を図っている。また、季節ごとに菖蒲湯、柚子湯を使用して、楽しみにつながる入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて午睡の時間を作っている。高齢者は中途覚醒や早寝早起きになることを理解し、夜だから寝るといった考えではなく、個人のリズムを作っていくことを考える。昼夜逆転している方はいない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医や薬局と連携を取り正しい服用をしている。薬局からは薬情報を頂いており職員だれでも見れるところに置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることは活かしてご利用者にも役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の影響もあり、近隣公園には散歩には行っているが、遠出はできていない。初詣には近隣の寺に行っている。ボランティア団体とイベントにてオンラインにて、果物狩りを行っている。その後実際に届けてもらい実際の体験に近づくようにしている。 8/10	コロナ禍でも地域ボランティアの協力のもと、ドイツ村のお花畑や農園でのミカン狩りのリモート中継により、入居者がWebでの外出の雰囲気を楽しんでいる。その後、ボランティアが収穫したミカンを施設に届けて、入居者が季節の味を楽しんでいる。また、感染対策を図りながら、少人数で近くの公園への散歩や寺院への初詣、公園での花見に出かけて、季節を感じて気分転換を図っている。これまで実施していた外出行事や家族と一緒に夕食、墓参り、旅行などへの外出支援も再開の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ご家族からお預かりし金庫にて保管している。買い物の際には今いくらかあるのか確認し買い物を楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど季節の変わり目にはお手紙を出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを行っている。室温を管理し快適な温度感で過ごせるよう支援している。	クリスマスツリーや七夕の短冊の飾りつけなど、季節感を味わえる空間づくりを行っている。フロアでは、懐かしの歌のカラオケやパズルを入居者同士で楽しみ、賑やかで明るい雰囲気を感じられる。廊下には、手すりを設置し、車椅子利用の入居者は筋力低下を防ぎ、自分の力で排泄、入浴ができるように、手引きでの廊下歩行を行っている。また、入居者同士の相性などを考慮してテーブル席を配置し、落ち着いて自分の時間を過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人になれるスペースはない。席の配置は仲の良い利用者同士で近くなるようにしている。利用者によっては居室にほかの方を呼んで反すことがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れたものや人形、人によっては位牌をお持ちになっており、なるべくご自宅に近い空間を提供している。	これまでの生活の継続を感じられるように、テレビや使い慣れたダンスや好みの人形、家族写真、位牌などが家族の協力により自由に持ち込まれている。ダンスやクローゼット内の整理や居室の掃除は、入居者の残存能力を活かして職員と一緒に行うようにしている。センサー設置や立ち上がり易い位置へのベッドの移動、つかまり易い位置に家具を配置するなど、転倒防止を図っている。また、居室内の消毒、定期的な換気、加湿器での湿度管理、毎日の掃除により感染防止と清潔な居室環境づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には入り口に明記しており、迷うことなく使用できるようにしている。段差は極力なくしており、車椅子での移動も可能である。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	現状、季節のレクとして初詣やお花見などを行っている。しかし日々の外気浴として行うことができていない。職員に聞くと天気や気温を気にしている様子。季節感を楽しんでいただくことができていないのか不明。	日々のレクの中で外気浴をと入り入れる。	近隣公園や施設への外出だけでなく、植木の手入れや水やりなどで季節感を楽しんでいただく。	3ヶ月
2	34	新規入職者がいるため、対応がわからない方がいる	新規の方のみならず、再度対応方法を周知する。	カンファレンスの際や掲示物を確認し古いものなら改める。緊急連絡網を確認する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。